



日本共産党 そねはじめレポート

2011年 7月26日発行 第 38号

そねはじめ事務所
114-0032
北区中十条2-11-6
Tel:3907-1135
Fax:3906-3225

国の介護保険改悪を北区は実施すべきでない！ 要支援者の介護保険はずし・サービス低下やめよ

●震災のどさくさにまぎれて介護保険改悪法を強行

6月15日、参院本会議で介護保険法改定案が賛成多数で可決、成立しました。日本共産党は、「要支援」と認定された高齢者への介護サービスを、市町村の判断で安上がりのサービスに置き換えることを可能にすることや、医療の専門職が行うべき医療的ケアの介護職員おしつけ等問題点があることから反対しました。

●わずかな審議時間で民主・自民・公明・みんなの党が国会をおし切る

法案では当初、要支援の高齢者を一律に介護保険からはずすことを検討していましたが、高齢者や介護事業者の批判をかわすため、自治体判断にゆだねられました。しかし圧倒的な介護・医療関係者に法案の手直し経過が知らされないまま、衆議院で10時間、参議院で8時間の短時間審議で採決され、疑問や不安の声が広がっています。(写真は介護保険改悪反対で運動している桐ヶ丘健康友の会総会)



●北区は「要支援は保険からはずさない」と言明

そねはじめ前都議が、北区の介護保険担当者に問い合わせたところ「法が実施されても要支援者が保険からはずされることはありません」と言明。自治体の独自メニューで行う「日常生活支援総合事業（総合事業）」は、介護認定の非該当者を対象にするとしています。

新法は、秋以降に出される政府の要綱を待って具体的内容が検討されますが、国が一貫して医療や介護の財政負担から逃れるために、自治体や国民に負担や犠牲の転嫁をねらっていることに今後も警戒が必要です。

3度目の大水害の危険がせまっている！

都と首都高は不完全な「水防計画」見直しを急げ

●台風6号で石神井川の水位が上昇

関西から関東まで激しい風雨をもたらした台風6号の影響で、先週、堀船、豊島にかけ石神井川の水位がかなり上昇しました。北区は昨年7月5日の水害後、水位測定器を設置、ホームページにリアルタイムの川の映像を公表していますが、昨年溢水した肝心の溝田橋のデータがありません。都や首都高も、水害の原因究明も、弱点が明らかな首都高工事区域の「水防計画」見直しも全くやろうとしません。次に水害が起きても「想定外」



で済まそうと言うのでしょうか。

●水害後の対策で、次はどこが危険か分かりにくくなっている

首都高と東京都、北区は、昨年水害後に水が溢れた日本たばこ倉庫の前を中心に右岸側の護岸を6メートルまでかさ上げしましたが、つぎにもし1時間百ミリ級の豪雨による洪水の危険が迫ったとき、どこから水が溢れる危険があるのか分かりにくくなっています。

北区は首都高や都の資料を集め、災害対策の専門家の英知も結集して早急に石神井川下流の現状でのハザードマップを作成し、住民に提供すべきです。

そねはじめと池内さおりが北区内全域で街宣 共産党総力で被災地救援・原発ゼロめざすと訴え



台風後の暑さが戻ってきた7月24日、そねはじめ前都議と、09年総選挙候補者の池内さおり氏が、午後から夕刻まで宇都宮・山崎・やまき・本田各区議とともに宣伝カーで党の政策を訴え10箇所演説しました。

●被災地を見て政治を大もとから変える決意に

池内さおり氏は、全国の組織あげて被災地を支援し、被災者の願いに寄り添って東北の復興をめざす共産党の躍進をうったえました。

また青年・学生の中で「就職難や高い学費の苦しみは自分の責任とってきたが、政治を変えればきっと打開できる」という声が、被災地支援を通じて政治の無策を知り、行動する若者の間で起きつつあると訴えました。

●2大政党が取り組まない原発ゼロを国民世論で おし進めよう

そねはじめ前都議は、昨年まで“福島原発の電源喪失の危険”を吉井衆院議員が質問で追及したにもかかわらず、議員少数の党の主張を政権もマスコミも黙殺し、重大事故を防げなかった悔しさを訴え、強く大きな党をめざす決意をうったえました。

また、執拗に原発推進をねらう“原発利益集団”の企業や政治家・専門家・マスコミなどに対し、国民世論で国政を動かすため、「原発ゼロをめざす国会請願」に北区で3万人の署名をめざしていることを訴えました。

★北区から東北被災地へ第4次ボランティア8月23・24日に 青年や女性も参加できるボランティア活動を計画★

6月と7月の3次にわたり、北区の共産党から被災地の石巻に救援ボランティアが延べ累計で48人参加してきました。区議団からはすでに女性3名を含め、6人の区議が現地に出かけて先頭に立っています。

★格安の参加費で、被災地もしっかり見てこよう

8月は、旧盆を過ぎた8月23日（火）から一泊で、多くの方ができるだけ少ない費用負担で参加でき、誰もが可能な活動内容となるよう、ボランティア計画にとりくむ予定です。積極的に申し込みください。

支援物資の準備は共産党北地区の災対本部で行いますが、下記の物品について皆様のところに余ってれば、ご連絡ください。

★ ボランティアで届けたい物品 ★

★野菜（日持ちするもの）・保存食品（かんづめ・レトルト・乾物）★防虫剤（ハエ取り紙や防虫スプレー）
★割り箸・石鹸・食器・プラスチック容器等★懐中電灯・ラジオ・ドライバーセットなど★赤ちゃん用品（お尻拭きやベビー服・乳母車）★高齢者のオムツ・尿漏れパッドなど★カセットコンロ・ボンベ★鍋・ヤカン・フライパン・土鍋★バスタオル・タオルケット★敷き布団（清潔なもの）・シーツ★（できるだけ新品の）Tシャツ・下着・靴下★

★詳細のお問い合わせはそねはじめ事務所、または日本共産党北地区委員会(3906-2821)まで